

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考 ※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	
前期	4	あさ	2 話・聞②	◎教師の問いかけに対して、絵を見て見つけたこと、想像したことを話すことができる。(話・聞(1)ア)	・教師の指示を聞いて楽しく活動し、絵を見て思ったことを話そうとしている。	【話・聞】 ・教師の問いかけを聞き、ふさわしい話をしている。 ・絵を見て教師や友達に話すことを見つけている。		■絵を見て話す。 ■応答する。 ☆校庭探検（生活科）
	さあ はじめよう							
		なんて いおうかな	2 話・聞②	◎相手や場面に応じて、適切な言葉遣いで話すことができる。(話・聞(1)イ) ○互いの話を集中して聞き、話題に沿ってやり取りをすることができる。(話・聞(1)オ)	・体験を生かしながら、場面に応じた言葉遣いを考えて話そうとしている。	【話・聞】 ・相手や場面に応じて、丁寧な言葉と普通の言葉を使い分けて、話したり挨拶をしたりしている。 ・話し手の方を見ながら互いの話を集中して聞き、それぞれの場面の話題に沿って適切な言葉を考えてやり取りをしている。		■場面に合わせてやり取りをする。 ※挨拶や言葉遣いなどを心掛けて、他人と接する心を育てる題材（道徳）
		どんな おはなしか	2 読②	◎本や作品の読み聞かせを、想像を膨らませながら楽しく聞くことができる。(読(1)ウ)	・知っている本や作品について話そうとしている。	【読】 ・教師の読み聞かせを、想像を膨らませながら楽しんで聞いている。		■読み聞かせを聞いて楽しむ。 ※読み聞かせ（図書館活用）
		どうぞ よろしく	3 話・聞① 書②	◎友達に知ってもらいたいことを考え、互いに自己紹介をしようことができる。(話・聞(1)ア・イ・オ) ○相手によく分かるように、自分の名前などを丁寧に書くことができる。(書(1)ウ・オ、伝国(1)ウ(ア))	・平仮名を丁寧に書こうとしている。	【話・聞】 ・名前カードを交換する際、友達と言葉のやり取りをしている。 【書】 ・語のまとまりを意識して書き、カードを交換して読み合っている。	・「い・ち・ね・ん」と、自分の名前を平仮名で書いている。	■自己紹介をしたり、それを聞いたりする。 ■紹介したいことをカードに書く。 ※自己紹介や対話を通して、お互いのことを知り、伝え合う姿勢を育てる題材（生活科）
		こえの おおきさ どう するの	1 話・聞①	◎場面に合わせた声の大きさを話することができる。(話・聞(1)ウ)	・場面に合う大きさの声を発出そうとしている。	【話・聞】 ・場面に応じて適切な声の大きさを考えて話している。		■いろいろな場面で相手に伝わる声の大きさを話す。
		うたに あわせて あいうえお	2 読②	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(読(1)ア) ○「あ・い・う・え・お」の文字を正しい筆順で書くことができる。(伝国(1)ウ(ア))	・楽しくリズムをとり、声に出して読もうとしている。	【読】 ・言葉のまとまりで区切って、はっきりした発音で読んでいる。 ・姿勢・口形に気をつけて「あ・い・う・え・お」を発音している。	・「あ・い・う・え・お」の文字と発音を一致させて書いている。 ・文字には筆順があることを理解している。	■想像を広げながら楽しんで読む。 ※歌を通して正しい発声を身につける題材（音楽）

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考 ※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	
前期	4	ことばを つくろう	2 書②	◎音節と文字の関係に気づくことができる。(伝国(1)イ(イ)) ・既習の平仮名を使って単語を書くことができる。(書(1)ウ)	・1音1文字であることを意識しながら、既習の平仮名を使った言葉を進んで見つけようとしている。	【書】 ・P24・25に提示された文字や自分で考えた単語を正しく書いている。	・1音1文字であることを理解している。	■文字を並べて、言葉を作る。
	5	えをみて はなそう	2 話・聞②	◎絵を見ながら型に合わせて尋ねたり、質問に答えたりすることができる。(話・聞(1)オ) ・主語と述語の関係に注意することができる。(伝国(1)イ(カ))	・絵を見て分かることを話そうとしたり、問答を楽しもうとしたりしている。	【話・聞】 ・提示された「問い」「答え」の話型で話している。 ・質問→答え→答えに応じる、というやり取りをしている。	・主語と述語の関係に注意してやり取りしている。	■尋ねたり、応答したりする。
		かきと かぎ	2 書②	◎平仮名で濁音を含む単語を書くことができる。(書(1)ウ, 伝国(1)ウ(ア))	・濁音を含む単語を書こうとしている。	【書】 ・濁音を含む唱え歌を考えて書いている。	・濁音がつく文字の音と表記を理解し、提示された平仮名を書いている。	
		あさのおひさま	1 読①	◎リズムや繰り返しを意識しながら音読することができる。(読(1)ア, 伝国(1)ウ(ア)) ○朝日や海の様子を想像しながら読むことができる。(読(1)ウ)	・音の響きに気をつけて楽しく音読しようとしている。	【読】 ・場面の様子を想像しながら、言葉のまとまりで区切って、はっきりと声に出して読んでいる	・平仮名をすらすら読んでいる。	■詩を楽しんだり、想像を広げたりして読む。
		はなのみち	6 読⑥	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(読(1)ア) ○文章や挿絵を見ながら、場面の様子について、想像を広げて読むことができる。(読(1)ウ) ○敬体で書かれた文章になじむことができる。(伝国(1)イ(キ))	・登場人物の行動や時間・季節の移り変わりについて気づいたことを話し、文章と挿絵の関わりを考えようとしている。	【読】 ・言葉のまとまりで区切ってはっきりと声に出して読んでいる。 ・自分の好きな場面を選び、想像を広げて音読している。 ・2枚の挿絵の違いから話の大体の流れを捉えている。	・敬体で書かれた文章の内容を理解している。	■想像を広げながら物語を楽しんで読む。 ※自然を愛する心を育てる題材(道徳)
		ぶんをつくろう	4 書④	◎主語と述語の関係に注意して「――が――。」という文型の文を書くことができる。(書(1)ウ, 伝国(1)イ(オ)・(カ))	・絵や日常の生活の中から「――が――。」の文になることを見つけて書こうとしている。	【書】 ・「――が――。」の文を書いている。	・主語と述語の関係に注意して、句点を正しく使って文を書いている。	
		ねことねっこ	2 書②	◎促音や半濁音のある言葉を見つけて、正しく書くことができる。(書(1)ウ, 伝国(1)イ(エ))	・促音や半濁音のある言葉を集めようとしている。	【書】 ・促音や半濁音のある言葉を正しく書いている。	・促音、半濁音の表記を理解し、正しく書いている。	
		わけをはなそう	2 話・聞②	◎気持ちを話した後に、そのわけを話すことができる。(話・聞(1)イ) ○自分の経験などをもとに、話題に沿って話すことができる。(話・聞(1)ア)	・気持ちとそのわけについて、進んで話そうとしている。	【話・聞】 ・絵を見て想像したことや自分の経験をもとにして、話すことを決めている。	・言葉には、経験や気持ちを伝える働きがあることに気づいている。	■感じ方とそのわけを話す。 ※わけを説明する。(生活科・算数)
		6						

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
前期	6			○言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(伝国(1)イ(ア))		・気持ちを先に話し、その後にわけを話している。		
		おばさんと おばあさん	2 書②	◎長音のある言葉を集め、読み書きできるとともに、助詞「を」を文の中で正しく使うことができる。(伝国(1)イ(エ)) ・語と語の続き方に注意しながら文を書くことができる。(書(1)ウ)	・長音のある言葉を集め、正しく書こうとしている。	【書】 ・語と語の続き方に気をつけて、「――を――する。」という文を書いている。	・長音の表記と助詞「を」の用法を理解し、正しく文の中で使っている。	
		くちばし	8 読⑥ 書⑦	◎説明の順序や内容を考えながら読むことができる。(読(1)イ, 伝国(1)イ(キ)) ○文章の内容と、自分の経験や知識とを結び付けることができる。(読(1)オ) ・語と語の関係に注意して、助詞「は」を正しく用いながら、文を書くことができる。(書(1)ウ, 伝国(1)イ(エ))	・文章の内容や、「問い」と「答え」という形式に興味をもって読もうとしている。	【読】 ・「なんの――でしょう。」という問いと、それに対する答えを捉えている。 ・自分の経験や知識を生かして説明内容を正しく捉えている。 【書】 ・呼応関係に注意して、問いと答えの文を書いている。	・敬体の文章に慣れるとともに、助詞「は」を文の中で正しく使っている。	■生き物について説明している文章を読む。 ※生き物の観察をする。(生活科) ※関連読書(図書館活用)
		おもちゃと おもちゃ	2 書②	◎拗音のある言葉を集め、読み書きできるとともに、助詞「へ」を文の中で正しく使うことができる。(伝国(1)イ(エ)) ・語と語の続き方に注意しながら文を書くことができる。(書(1)ウ)	・拗音のある言葉を集め、正しく書こうとしている。	【書】 ・語と語の続き方に気をつけて、「――へ――。」という文を書いている。	・拗音の表記と助詞「へ」の用法を理解し、文の中で正しく使っている。	
		おもいだして はなそう	3 話・聞⑩	◎自分の体験を思い出し、姿勢や話し方に注意して順序立てて話すことができる。(話・聞(1)ア・イ・ウ) ○友達の話に興味をもって聞くことができる。(話・聞(1)エ) ・言葉には、経験を伝える働きがあることに気づくことができる。(伝国(1)イ(ア))	・体験を思い出して話そうとしている。	【話・聞】 ・自分の体験を詳しく思い出し、それをもとに話を組み立てている。 ・話す声の大きさや速さ、姿勢や口形に気をつけて話している。 ・話し手の方を向いて、興味をもって聞いている。	・言葉で体験を伝えることができることに気づいている。	■経験を報告したり、それを聞いたりする。 ※楽しかったことを伝える。(生活科)
		あいうえおで あそぼう	3 読① 話・聞⑩ 伝国①	◎はっきりした発音や口形に気をつけて声を出すことができる。(話・聞(1)ウ)	・言葉のつながりのおもしろさに気づき、楽しんで読んだり書いたりしようとしている。	【話・聞】 ・はっきりした発音と口形を意識して声を出している。	・拍と表記の関係に気づいている。	

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
前期	6			○遊び歌の語のまとまりや内容, 言葉のおもしろさを楽しみながら声に出して読むことができる。(読(1)ア, 伝国(1)ウ(ア)) ・音節と文字との関係に気づくことができる。(伝国(1)イ(イ))		【読】言葉のまとまり, リズム, 繰り返しなどを楽しんで音読している。	・平仮名の清音の大体を, 母音を意識して正しく読んでいる。	
		おおきく なった	4 書④	◎書こうとする題材に必要な事柄を, 対象を観察して集めることができる。(書(1)ア) ○語と語の続き方に注意し, 句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。(書(1)ウ)	・観点を立てて, 対象を丁寧に観察し, 適切な言葉で記録しようとしている。	【書】 ・教科書の観点を参考にしながら, 丁寧に観察して, 書く材料を集めている。 ・教科書の二つの作例の書き方の違いに気づき, どちらかを選んで同じような形式で書いている。	・観察したことを記録するための観点について理解している。	■観察したことを記録する文章を書く。 ※植物を観察する。(生活科)
		おむすび ころりん	5 読⑤	◎語や文としてのまとまりや内容, 文のリズムに注意しながら声に出して読むことができる。(読(1)ア) ○場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。(読(1)ウ) ・言葉には, 意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(伝国(1)イ(ウ))	・役割を決めて楽しんで音読しようとしている。	【読】 ・繰り返しや七五調のリズムなどを楽しんで音読している。 ・場所, 人物, 出来事に注意して読んでいる。	・様子を表す語句, 動きを表す語句, 気持ちを表す語句があることに気づいている。	■昔話を想像を広げながら楽しんで読む。 ※我が国の文化や生活に親しみ, 愛着をもたせる題材(道徳)
		たからものを おしえよう	4 話・聞④	◎自分の大切なものについて, 姿勢や話し方に注意して, 順序立てて友達に話すことができる。(話・聞(1)ア・イ・ウ) ○相手が伝えたいことを落とさないように聞くことができる。(話・聞(1)エ) ・事物の内容や自分の経験を伝える言葉の働きを理解することができる。(伝国(1)イ(ア))	・説明の方法を知り, 「たからもの」を友達に教えようとしている。	【話・聞】 ・説明のために必要な事柄を集め, 順序立てて説明している。 ・二人組で相談するとき, グループで発表するとき, それぞれに適した声の大きさや言葉遣いで話している。 ・相手が伝えようとしていることを, 興味をもって聞いている。	・言葉には, 事物の内容や自分の経験を伝える働きがあることに気づいている。	■事物の説明をし, それを聞いて質問したり, 感想を述べたりする。 ※好きな物を伝える。(生活科)
	7							
		はをへを つかおう	3 書③	◎語と語をつなぐ助詞「は・を・へ」を正しく使って文を書くことができる。(書(1)ウ, 伝国(1)イ(エ))	・「は・を・へ」の使い方に注意しようとしている。	【書】 ・語と語の関係を把握し, 助詞「は・を・へ」を正しく使って文を書いている。	・助詞「は・を・へ」を文中で正しく使っている。	

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考 ※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	
前期	7	すきな こと, なあに	4 書④	◎「好きなこと」と「その理由」を文と文との続き方に注意しながら二文で書くことができる。(書(1)ア・ウ) ○書いたものを読み合い感想を伝え合うことができる。(書(1)オ) ・主語と述語の関係や句読点に気をつけて書くことができる。(伝国(1)イ(オ)・(カ))	・好きなことを書いて知らせることに興味をもち、進んで書こうとしている。	【書】 ・教科書の例文に準じて、理由が分かるように書いている。 ・書いたものを友達と読み合い、内容について感想を伝えている。	・主語と述語の関係に注意し、句読点を正しく用いて書いている。	■紹介したいことを文章に書く。
		おおきな かぶ	6 読⑥	◎繰り返しの言葉や文章のリズムを生かして、音読をすることができる。(読(1)ア) ○場面の様子や増えていく登場人物について想像を広げながら読むことができる。(読(1)ウ) ・文中における主語と述語の関係に注意することができる。(伝国(1)イ(カ))	・物語を読み、進んで音読を工夫しようとしている。	【読】 ・繰り返しの言葉やリズムを楽しんで音読している。 ・場面の様子や登場人物の動きを想像して、声の出し方を工夫したり動作を考えたりして音読している。	・誰が何をしたかを理解している。	■物語を想像を広げながら楽しんで音読する。 ※協力する姿勢を育てる題材(道徳)
		ほんは ともだち	2 読②	◎自分の読みたい本を選んで読むことができる。(読(1)カ, 伝国(1)ウ(ア))	・進んで本を選んで読もうとしている。	【読】 ・自分の読みたい本を選んで読んでいる。 ・選んだ本のおもしろい点や楽しく感じる点を見つけている。	・本の中の平仮名を正しく読んでいる。	■選んだ本について、好きなところを紹介する。 ※読書活動(図書館活用)
		こんな ことを したよ	6 書⑥	◎知らせたい体験を決めて必要な事柄を思い出し、語と語、文と文とのつながりに気をつけて書き、交流することができる。(書(1)ア・ウ・オ) ・長音、拗音などの表記や助詞を正しく使うことができる。(伝国(1)イ(エ))	・自分の体験を思い出し、友達に伝えるための文章を書こうとしている。	【書】 ・体験を詳しく思い出して、書くことを集めている。 ・体験とそのときに感じたことを三文程度で書き、書いたものを読み合っている。	・長音、拗音などの表記や助詞「は・を・へ」を正しく文の中で用いている。	■体験を知らせる文章を書く。 ※自分の体験を伝える。(生活科)
	8	いちねんせいの うた	2 読②	◎語のまとまりや言葉の響きなどを考えながら、工夫して音読することができる。(読(1)ア, 伝国(1)ウ(ア))	・詩に興味をもち、楽しんで読もうとしている。	【読】 ・内容や言葉の響きを考えながら工夫して音読している。	・語のまとまりを捉えて平仮名を読んでいる	
	はなそう, きこう なつやすみの ことを はなそう	4 話・聞④	◎経験の中からみんなに話したいことを選び、話の順序を考えながら、丁寧な言葉を使って話すことができる。(話・聞(1)ア・イ, 伝国(1)イ(キ))	【関】夏休みに経験したことをみんなに知らせることに興味をもって取り組もうとしている。	【話・聞】 ・夏休みの出来事から題材を決めている。	【言】「です」「ます」を用いて丁寧な言葉で話している。	■経験したことを報告したり、それらを聞いて感想を述べたりする。	

学期	月	単元名 教材名	小単元 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考	
						関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動	
前期	8				○話の大事なことを落とさないように興味をもって聞くことができる。(話・聞(1)エ)		・友達に伝わるように、話す事柄を順序立てて丁寧な言葉で話している。 ・話し手の方を見ながら、興味をもって聞いている。			
	9	ひらがな あつまれ		2 書②	◎平仮名を使って条件に合う言葉を書くことができる。(書(1)ウ, 伝国(1)ウ(ア))	・進んで言葉を探し、書こうとしている。	【書】 ・条件に合う言葉を書いている。	・平仮名の大体を読んで書いている。	■平仮名を使って言葉遊びをする。	
		おはなしを たのしもう								
		ゆうやけ		8 読⑧	◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。(読(1)ウ, 伝国(1)ウ(ア)) ○文章の内容と自分の経験を結び付け、自分の思いや考えを發表することができる。(読(1)オ) ・片仮名の語を正しく読み、書くことができる。(伝国(1)イ(ア))	・物語を楽しみ、好きなところを話したり、想像したことをもとに工夫して読もうとしたりしている。	【読】 ・好きな場面を選び、登場人物やその行動を捉えて想像を広げながら読んでいる。 ・物語の内容と関連する体験を思い出して自分の思いや考えを話している。	・言葉によって体験が伝えられることに気づいている。 ・片仮名を正しく読み、書いている。	■楽しんだり想像を広げたりしながら、文章を読む。	
		かたかなを みつけよう		2 書②	◎片仮名の語を正しく読み、片仮名で書く言葉を見つけて、書くことができる。(伝国(1)ウ(ア), 書(1)ウ)	・身の回りにある片仮名を、進んで探そうとしている。	【書】 ・語としてのまとまりを意識して、片仮名の語を書いている。	・教科書に提示された片仮名を正しく読んだり書いたりしている。		
		よんで たしかめよう								
		うみの かくれんぼ		8 読⑧	◎事柄の順序や文章構成上の順序を考えながら読むことができる。(読(1)イ) ○文章の内容と自分の経験や知識を結び付けて読むことができる。(読(1)オ) ○主語と述語の関係や、漢字の読み方に注意して文章を読むことができる。(伝国(1)イ(カ)・ウ(イ))	・説明文を進んで読んだり、図鑑や科学読み物で調べたりしようとしている。	【読】 ・問いかげがどんな事柄を取り上げているかを理解している。 ・事柄の順序に気をつけて読み、何が書かれているかを捉えている。 ・自分の経験や知識と関わらせて、読み取った内容を友達と話している。	・主語と述語の関係や、漢字の読み方に注意して文章を読んでいる。	■生き物の図鑑や科学読み物を読む。 ※生き物に興味をもつ題材(生活科) ※関連読書(図書館活用)	
	10	かずと かんじ		4 書② 伝国⑩	◎一から十までの漢字を読んだり書いたりすることができる。(伝国(1)ウ(イ)) ・数を表す漢字や、いろいろな数え方を書くことができる。(書(1)ウ)	・数え歌や数を漢字で書くことを楽しもうとしている。	【書】 ・数を表す漢字には幾つかの読み方があることを理解して、数え歌を作り書いている。	・一から十の漢数字を用いて数を表し、ものによって適切な助数詞を使っている。		

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考 ※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	
後 期	10	こえに だして よもう くじらぐも	8 読⑧	◎場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。(読(1)ア) ○登場人物の行動を中心に、好きなところを見つけながら読むことができる。(読(1)ウ・エ) ・かぎ(「 」)の使い方を理解することができる。(伝国(1)イ(オ))	・想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。	【読】 ・会話文を工夫しながら、場面の様子がよく分かるように音読している。 ・場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読んでいる。 ・お話の好きなところを見つけて書いている。	・会話のかぎ(「 」)を使って書くことを理解している。	■想像を広げながら、物語を声に出して読む。
		よく 見て かこう しらせたいな、見せたいな	10 書⑩	◎書こうとする題材に必要な事柄をよく観察し、語と語や文と文の続き方に気をつけて書くことができる。(書(1)ア・ウ) ○書いた文章を読み返す習慣をつけ、間違いを直すことができる。(書(1)エ) ・句読点を正しく使って文章を書くことができる。(伝国(1)イ(オ))	・知らせたいものについて、よく見て書こうとしている。	【書】 ・よく見て気づいたことを短い言葉で書き表している。 ・語と語や文と文の続き方に気をつけながら、つながりのある文や文章を書いている。 ・文章を読み返し、句読点や字の間違いなどを直している。	・句読点を正しく使って書いている。	■観察したことを記録する文章を書く。 ※動植物の観察記録文を書く。(生活科)
		まちがいを なおそう	2 書②	◎書いた文章を読み返したり、間違いを正しく直したりすることができる。(書(1)エ, 伝国(1)イ(エ))	・書いた文章を読んで間違いを見つけたり、正しく直したりしようとしている。	【書】 ・書いた文章を読み返し、間違いを正しく直している。	・助詞「は・を・へ」などの使い方を正しく理解している。	
	11	かん字の はなし	6 書③ 伝国③	◎第1学年に配当されている漢字を読んだり書いたりし、漢字を使った文を、続き方に注意して書くことができる。(伝国(1)イ(イ)・ウ(イ), 書(1)ウ)	・絵や印からできた漢字の成り立ちについて進んで知ろうとしている。	【書】 ・語と語の続き方に注意して短文を書いている。	・漢字と表音文字の違いに気づくとともに、教材文に出てくる漢字を正しく読んだり書いたりしている。	
		ことばを 見つけよう	2 伝国②	◎文の中に隠れた言葉を補いながら言葉遊びの文を読んだり、意味を考えながら言葉遊びの文を作ったりすることができる。(伝国(1)イ(ア)) ・文字を組み合わせると意味のある言葉になることに気づくことができる。(伝国(1)ウ(ア))	・言葉遊びの楽しさに気づき、進んで音読したり、作ったりしようとしている。		・文字を組み合わせて言葉ができることや、一文字違うだけで別の意味になることを理解している。	

学期	月	単元名 教材名	小単元 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考
						関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
後 期	1 1	くらべて よもう							
		じどう車くらべ	1 2 読⑥ 書⑥	◎知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。(読(1)イ・エ・カ) ○事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。(書(1)イ・ウ・オ) ・長音・拗音・促音などの表記や、句読点を正しく使って書くことができる。(伝国(1)イ(エ)(オ))	・自動車について説明されている絵本や図鑑、文章などを読み、進んで調べようとしている。	【読】 ・事柄の順序を考えながら読み、内容の大体を理解している。 ・本や文章の中から、必要な言葉や文を書き抜いている。 ・知識を得るために本や文章を選んで読んでいる。 【書】 ・「そのために」を使って文と文をつなぎ、自動車の仕事と作りを説明する文章を書いている。 ・書いた文章を、友達と読み合い、よいところについて感想を伝え合っている。	・長音・拗音・促音などの表記や、句読点を適切に用いて書いている。	■事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。 ■身近な事物を簡単に説明する文章を書く。 ※関連読書（図書館活用）	
	かたかなを かこう	2 書②	◎片仮名の語を正しく読んだり、片仮名で書く語を使った文を書いたりすることができる。(書(1)ウ、伝国(1)ウ(ア))	・身近なものの中に片仮名で表されているものがあることに気づき、進んで探そうとしている。	【書】 ・語と語の続き方に気をつけて書いている。	・片仮名の長音や拗音、促音の表し方を理解し、正しく読んだり書いたりしている。			
	1 2	まの いい りょうし	1 読①	◎読み聞かせを聞きながら、昔話を楽しみ、感想を伝え合うことができる。(読(1)ウ、伝国(1)ア(ア))	・昔話の読み聞かせを楽しんで聞いたり、自分から進んで読んだりしようとしている。	【読】 ・場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読み聞かせを聞いている。	・昔話の読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりして親しみ、おもしろかったところを友達に話している。	■昔話の読み聞かせを聞く。 ※我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材（道徳）	
		ほんは ともだち							
		むかしばなしが いっぱい	3 読① 伝国⑥	◎日本や外国の昔話を読んだり、読み聞かせを聞いたりし、お話の好きなところを紹介することができる。(読(1)オ・カ、伝国(1)ア(ア))	・日本や外国の昔話を楽しみ、読みたい本を進んで自分で探して読もうとしている。	【読】 ・読みたい本を選んで読み、自分の経験や読書体験と結び付けて、感想を述べている。	・昔話のおもしろさや語り口調、言い回しに親しんでいる。	■読んだ昔話について、好きなところを紹介する。 ※関連読書（図書館活用）	
		きいて しらせよう							
		ともだちに、きいて みよう	4 話・聞④	◎話す順序を考えながら、丁寧な言葉で話したり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができる。(話・聞(1)イ・エ、伝国(1)イ(ア))	・紹介するために必要なことを進んで尋ねたり、それに答えたりしようとしている。	【話・聞】 ・「いつ」「どこで」「誰が」「何を」などを使って尋ね、大事なことを落とさないように、友達の答えをノートに書いている。	・聞いたことを伝えるときの話し方を理解している。	■尋ねて分かったことを紹介する。	

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考 ※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	
後 期	1 2	日づけと よう日	3 書② 伝国①	◎日づけや曜日の歌を楽しく唱えながら、語句の意味やまとまりに気づくことができる。(伝国(1)イ(ウ)) ○語と語の続き方に注意しながら、日づけや曜日の歌を書くことができる。(書(1)ウ)	・1年や1週間を表す言葉に親しみながら、日づけや曜日の歌を楽しんで作ろうとしている。	【書】 ・語と語の続き方に注意しながら、自分の日づけ歌、曜日歌を作っている。	・日づけや曜日を表す言葉を、正しく読んだり書いたりしている。	
		本は ともだち 本を えらんで よもう ずうっと、ずっと、大すきだよ	8 読④ 書①	◎読みたい本を選び、登場人物の行動を中心に想像を広げ、好きなところを見つけながら読むことができる。(読(1)ウ・オ・カ) ・文と文の続き方に注意しながら、紹介したい本のカードを書いたり、書いたものを読んで感想を伝え合ったりすることができる。(書(1)ウ・オ, 伝国(1)イ(ア))	・本を紹介し合うことに興味をもち、読みたい本を進んで選ぶとしている。	【読】 ・場面の様子や登場人物の行動について想像を広げ、好きなところを見つけながら読んでいる。 ・題名・作者・表紙などの観点をもとに、読みたい本を選んで読んでいる。 【書】 ・物語の好きなところをカードに書き、友達のカードを読んで感想を伝え合っている。	・本を紹介するときに必要な言葉を理解している。	■本を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ■読んだ本について、好きなところを紹介する文章を書く。 ※生命を尊重する心を育てる題材(道徳) ※読書活動(図書館活動)
	1	てんとうむし	2 読②	◎語のまとまりごとに意味を考えながら、音読することができる。(読(1)ア, 伝国(1)ウ(ア))	・話しかけるように読んだり動作化をしたりして、読み方を工夫しようとしている。	【読】 ・想像したことをもとに、声の出し方を工夫して音読している。	・語のまとまりを捉えながら、平仮名をすらすらと読んでいる。	■工夫して、詩の音読を楽しむ。
		ものの 名まえ	6 話・聞② 伝国④	◎意味による語句のまとまりや、上位語・下位語の関係に気づくことができる。(伝国(1)イ(ア)(ウ)) ○客と店の人になって売り買いのやり取りをし、尋ねたり応答したりすることができる。(話・聞(1)オ)	・物の名前や「おみせやさんごっこ」に興味をもち、進んで話したり聞いたりしようとしている。	【話・聞】 ・お店でのやり取りに沿って、尋ねたり応答したりしている。	・上位語と下位語の関係を理解し、お店の看板には上位語に当たる言葉を、品物には下位語に当たる言葉を書いている。	■尋ねたり、応答したりする。
		かたかなの かたち	3 書③	◎平仮名と片仮名を関係づけ、形の似た仮名に注意して書くことができる。(書(1)ウ, 伝国(1)ウ(ア))	・形の似ている片仮名や平仮名に興味をもち、身の回りから進んで片仮名を見つけようとしている。	【書】 ・片仮名で書く言葉を使って、文を書いている。	・字形に注意して、片仮名を正しく書いている。	
	てがみを かこう てがみで しらせよう	6 書⑥	◎経験したことから書く題材を決め、文と文の続き方に注意して書くことができる。(書(1)ア・ウ)	・手紙の書き方を理解し、進んで書こうとしている。	【書】 ・伝えたい相手に応じて、経験したことや楽しかったことを思い出し、必要な事柄を集めている。	・句読点の打ち方や、主語と述語の関係に注意して、敬体を使って書いている。	■簡単な手紙を書く。 ※お世話になった人に手紙を書く。(生活科)	

学期	月	単元名 教材名	小単元 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考	
						関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動	
後 期	1							・文と文の続き方に注意して、 簡単な手紙を書いている。		
		おはなしを たのしもう								
		たぬきの 糸車		8 読⑧	◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げ、お話を楽しみながら読むことができる。(読(1)ウ) ○語のまとまりや言葉の響きなどについて考えながら音読することができる。(読(1)ア) ・主語と述語の関係に気をつけて読むことができる。(伝国(1)イ(カ))	・登場人物の行動を考えながら、昔話を楽しんで読もうとしている。	【読】 ・想像したことをもとに、語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読している。 ・場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読んでいる。	・誰が、何をしたのかを的確に読み取っている。	■楽しんだり想像を広げたりしながら昔話を読む。 ※我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育む題材(道徳)	
	2	ことばを たのしもう		2 伝国②	◎音節と文字の関係や、単語とそれを構成する文字の関係に気づくことができる。(伝国(1)イ(イ))	・言葉遊びを楽しんだり、早口言葉に進んで挑戦しようとしていたりしている。		・言葉遊びや早口言葉を通して、拗音を除けば、原則として1文字が1音節(拍)に対応することに気づいている。		
		ふたりで かんがえよう								
		これは、なんでしょう		4 話・聞④	◎話題に沿って話し合い、分からないことを尋ねたり、それに答えたりすることができる。(話・聞(1)オ, 伝国(1)イ(ウ)) ○身近なものの中から問題にするものを決め、必要な事柄を集めることができる。(話・聞(1)ア)	・問題作りを楽しみ、進んで話し合おうとしている。	【話・聞】 ・身近な物の中から題材を決め、事物の特徴を集めている。 ・互いの考えを終わりまで聞き、話題に沿って話し合っている。 ・問題を聞いて分からないところを質問したり、適切に答えたりしている。	・物の特徴を表す語句を理解している。	■事物の説明をする。 ■尋ねたり応答したり、二人で話し合って考えを一つにまとめたりする。	
	ちがいを かんがえて よもう									
	どうぶつの 赤ちゃん		10 読⑩	◎時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。(読(1)イ・エ) ・主語と述語の関係に注意して、敬体で書かれた説明を理解することができる。(伝国(1)イ(カ)(キ))	・動物の赤ちゃんについて説明されている文章や図鑑などを読み、進んで調べようとしている。	【読】 ・ライオンとしまうまを比べ、その違いについてまとめている。 ・目的に応じて、大事な言葉や文を書き抜いている。	・主語と述語の関係に注意し、ライオンとしまうまの様子を読み取っている。 ・敬体で書かれた説明を理解している。	■説明的な文章を、違いを比べながら読む。 ※科学的、論理的な見方や考え方を育てる題材(生活科) ※生命を尊重する心を育てる題材(道徳) ※関連読書(図書館活用)		

学期	月	単元名 小単元 教材名 (時数)	時数	指導目標	評価規準			※備考 ※次年度の指導に参考になる事項 ■言語活動
					関心・意欲・態度	【話・聞】【書】【読】	言語事項	
後 期	2	にて いる かん字	3	◎形の似ている漢字の形や筆順に注意して、第1学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができる。(伝国(1)ウ(イ))	・形の似ている漢字や筆順を間違えやすい漢字を進んで見つけ、文の中で使おうとしている。		・似ている漢字を区別し、筆順に気をつけて、文の中で正しく書いている。	
	3	すきな ところを さがして よもう だって だつての おばあさん	8	◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げ、好きなところを見つけながら楽しく読むことができる。(読(1)ウ) ○お話の中で、好きな言葉や文を書き抜くことができる。 (読(1)エ, 伝国(1)イ(ア))	・場面の様子や登場人物などの好きなところを見つけながら、お話を進んで読もうとしている。	【読】 ・登場人物の行動を中心に、好きなところを見つけながら読んでいる。 ・好きな場面や登場人物の好きなところを書き抜いている。	・理由を表す言葉を理解して使っている。	■お話の好きなところを見つけ、紹介し合う。 ※生活を明るくする態度を育てる題材(道徳)
		おもい出して かこう いい こと いっぱい, 一年生	12	◎経験したことから書く題材を決めて必要な事柄を集め、順序を考えながら、文と文の続き方に注意して書くことができる。(書(1)ア・イ・ウ) ・書いた文章を読み返して間違いなどを正したり、感想を伝え合ったりすることができる。(書(1)エ・オ) ・句読点の打ち方やかぎの使い方を理解して、文の中で正しく使うことができる。(伝国(1)イ(オ))	・1年間の思い出を思い浮かべ、必要な材料を集めて書くようにしている。	【書】 ・絵や写真をもとに、思い出した出来事や、それにまつわる事柄を書き出している。 ・知らせたいことが明確になるよう、「いつ、何を、どうだった」など書く順序を考えている。 ・語と語や文と文の続き方に注意して、分かりやすく書いている。 ・文章を読み直して、間違いなどを正している。 ・書いたものを読み合い、よいと思うことを伝えている。	・句読点の打ち方やかぎの使い方を理解して、正しく書いている。	■経験したことを報告する文章を書く。 ※生活を明るくする態度を育てる(道徳) ※P140「ひょうしょうじょう」
学習指導要領の配当時数			306					予備時数 32
国語の配当時数			240					
書写の配当時数			34					